

ターでは海外派遣企業の多い自治体施設を中心に、企業への支援体制を整備することが必要と考えられた。

【謝辞】 本研究は独立行政法人労働者健康安全機構の平成27年度産業保健調査研究費の助成を受けて実施した。

P1-19.

「e自主自学」上で簡単にできるシナリオ型教材の開発

(医学教育学)

○油川ひとみ、ブルーヘルマンスラウール、

泉 美貴

(救命救急センター)

三島 史朗

【背景】 系統講義と多肢選択法の試験は、知識の習熟度を高めることはできても、問題解決型の思考力育成に課題を残す。シナリオ型教材は、机上シミュレーションが可能で、問題解決型の思考を鍛えるのに適すると考え、eラーニングを用いた自習教材の開発に至った。

【目的】 eラーニングにおける教材の特長には動画および高画質の画像を使用できる点の他に、ページからページにリンクをはって行き来できる点がある。この点に着目し、設問の選択肢のボタンを押して次の設問に進む形式の教材を開発した。座学で病態から疾患を学んで来た学生に、実臨床の前に、症候から疾患を鑑別し治療方法を考える教材を開発し学生の自習教材とする。学習履歴のデータを分析し教育内容の向上のために利用し、最終的には簡単に制作できるよう標準化する。

【方法】 英国ノッティンガム大学で開発された教材制作のオープンソースシステム Xerte を使用し、「意識障害」「呼吸不全」「循環不全」のテーマで6教材を制作した。各教材とも患者が搬送されたところから始まり、選択肢を追って救命に至るところまでのシナリオ型の問題展開を行う。選択肢は正答を選択することのみを目的とせず、正答を選択する過程の選択肢を重視する。さらに、副教材としての資料へのリンクを提供したり多肢選択問題で知識を深めたりする工夫も行う。学生への使用の前にピア評価で質保証を行う。SCORM 対応で制作したため学習履

歴を取得でき、Learning Analytics (LA: 学習分析)により、学生の理解が不十分な点を抽出し授業・実習における教育の改善に結び付ける。教材開発の全工程において、難しい技術は用いず、簡単に制作できるよう工夫している。

【結語】 シナリオ型教材を制作し、ピア評価を経て学生への使用に至る。今後学習履歴を分析し効率よく授業および実習に反映させる。また、教員が自分で制作できるよう制作過程を標準化し、この取り組みを広げて行きたい。

P1-20.

「働き方改革」アンケート調査から見た本学の課題と改革提案

(医師・学生・研究者支援センター)

○須藤カツ子、大久保ゆかり、天野 栄子

荻野 令子、花田 尊子、宮川 香織

荒谷 聡子、長井 美穂、矢野由希子

真村 瑞子

(細胞生理学)

持田 澄子

(人体病理学)

原 由紀子

(神経内科)

赫 寛雄

(公衆衛生学)

小田切優子

(腎臓内科)

長岡 由女

(血液内科)

古屋奈穂子

(救命救急センター)

河井健太郎

(放射線科)

吉村 真奈

(メンタルヘルス科)

村越 晶子

医師・学生・研究者支援センターでは大学病院ワークライフバランス推進部会と共催して、平成28年12月に「働き方改革」アンケート調査を実施した。アンケートの回答集計から、本学の働く環境について見えてきた課題と今後の効果的な取り組みについ